

# 行政視察報告書

平成25年 5 月

文教民生常任委員会

- 1 視察実施日  
平成25年5月15日(水)から16日(木)まで
- 2 視察先  
千葉県山武市・富里市
- 3 調査事項
  - (1) 山武市：認定こども園「しらはたこども園」
    - ① 認定こども園の開設に至った経緯について
    - ② 保護者との合意形成について
    - ③ 認定こども園の運営について  
合同保育(幼児教育+保育)の実施状況と効果
    - ④ 園内での人事交流について
    - ⑤ 給与及び保育士等従業員数について
    - ⑥ 保育所・こども園の解放日について
    - ⑦ 認定こども園における「子育て支援センター」の役割について  
認定こども園との関係
    - ⑧ 認定こども園の運営における課題について
  - (2) 富里市：市立図書館
    - ① 図書館の基本的データについて
      - ・蔵書数(開架割合、児童書比率)、来館者内訳、職員内訳
      - ・運営コンセプト
    - ② ICタグ導入の経緯と機能について
    - ③ ICタグ導入後の効果と課題について
    - ④ 児童・中高生及び障害者向けの事業内容について
    - ⑤ 貸出し増加に繋がるソフト事業内容について
      - ・図書館ボランティア等の活動を含む
      - ・特色のある取り組み
    - ⑥ AVブースや無線LAN等の利用について
    - ⑦ 図書購入にかかる重点ポイント及び予算額について
      - ・サービスポイント、他施設等とのネットワーク
      - ・図書購入経費、システム運用経費、その他経費
    - ⑧ 現在における図書館運営の課題について
    - ⑨ 本市の図書館建設に対するアドバイスについて
- 4 参加者
 

委員長	藤本	邦之			
副委員長	岡崎	義樹			
委員	宮崎	春貴	村井	正信	
	中川	正則	廣田	利明	
理事者	田中	義章(福祉生活部長)			
随行者	山口	知哉(議会事務局主幹)			

# 千葉県山武市

## 1 市の概要

- (1) 市制施行年月日 平成18年3月27日
- (2) 人口 56,354人（平成24年6月1日現在）
- (3) 面積 146.38km<sup>2</sup>

## 2 認定こども園「しらはたこども園」の概要

### (1) 施設設置者

山武市 平成25年4月1日開園

### (2) 設置経緯

山武市では、少子化の進行、幼稚園・保育所の老朽化、職員構成難といった状況において、平成18年11月に「山武市幼保一元化推進協議会」を設置。認定こども園の設置に向けた検討を重ね、その中で、施設整備の実施と園運営の内容を決定し、トップダウン方式による幼稚園、保育所職員への理解と協力を求めた。

また、保護者へもこども園化の説明等を実施し、理解をいただいた上で、教育・保育機能を併せ持つ総合幼児教育施設である認定こども園の開設に至った。

なお、幼保一元化の検討は、市町村合併前の旧成東町において、平成13年度から検討されていた。

### (3) 開設の背景

- ① 少子化や核家族化の進行、女性の社会進出の拡大等により、社会構造や就業構造の変化を受け、就学前の教育・保育を一体的に捉えた取組が求められている。
- ② 少子化の進行により、子どもの健やかな成長にとって大切な集団活動や異年齢交流の機会が不足している。保育所が別々では、子どもの集団が小規模化し、運営も非効率になっている。
- ③ 就労形態が多様化する中で、保護者の就労の有無で利用施設が限定されている。
- ④ 核家族化の進行や地域の子育て力の低下により、家庭で0～2歳の子どもを育てている者への支援も大きく低下している。

### (4) 敷地面積

9,727.26m<sup>2</sup>（東京都からの払い下げによる）

### (5) 建物面積及び構造

2,611.61m<sup>2</sup>

鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造 2階建

### (6) 園児数

- ① 短時間保育児 90名

② 長時間保育児 120名

(7) 職員の状況

① 園長 1名(正)

② 副園長 1名(正)

③ 主任 2名(正)

④ 保育士・幼稚園教諭

32名(正…10名内、育休2名)、(臨…22名)

⑤ 保健師・看護師

0名

⑥ 用務員 0名

⑦ 調理員 7名(正…2名)(臨…5名)

職員合計 43名(併任辞令5名)正職…16名、臨職…22名

(8) 職員の配置

① 0歳児…職員4名(長児部…0名、短時部…-名 計0名)

② 1歳児…職員0名(長児部…16名、短時部…-名 計16名)

③ 2歳児…職員4名(長児部…18名、短時部…-名 計18名)

④ 3歳児…職員6名(長児部…21名、短時部…25名 計46名)

⑤ 4歳児…職員4名(長児部…19名、短時部…21名 計40名)

⑥ 5歳児…職員4名(長児部…32名、短時部…27名 計59名)

※ カッコ内は園児数

(9) 実施状況と効果

長児部と短児部が同室で共通カリキュラムに基づき合同保育を実施している。短児・長児それぞれの一日の生活時間に配慮し、活動と休息の調和を図りながら、共通利用時間において、幼児期の特性を踏まえた活動を実施している。

また、合同保育の効果として、保護者の就労条件等の有無に関係なく、卒園するまで当該施設に在園でき、担任や友達も年度途中で変わることなく、落ち着いた環境の中で園生活が過ごせる。

(10) 運営における課題

認定こども園の理念や機能など、素晴らしい面がある一方で、職員の身分や配置の問題、研修や事務量の負担増になる要素が多く、実際の園運営は幼稚園・保育所の制度が一元化されない限り複雑で難しいものになってしまう。

また、現在は職員の加入する共済制度の違いによる保育所型への異動に伴う職員の負担が大きいことや、幼保連携型こども園での幼稚園PTA組織と保育所保護者会組織の一本化の必要性、各種園行事への保護者の関わり方の違いとその内容、教育レベル水準の低下への保護者の懸念等がある。

# 千葉県富里市

## 1 市の概要

- |             |                          |
|-------------|--------------------------|
| (1) 市制施行年月日 | 平成14年4月1日                |
| (2) 人口      | 48,799人<br>(平成24年6月1日現在) |
| (3) 面積      | 53.91km <sup>2</sup>     |

## 2 「富里市立図書館」の概要

### (1) 設置概要

旧役場庁舎跡、富里市の中央に位置し、ライブラリーオープンスペース、一般開架ゾーン、児童開架ゾーン、研修会議ゾーン、ふれあい教室、管理ゾーンにより構成され、明るく光りに満ちた造りになっている。開架10万冊、書庫10万冊の収蔵能力を持ち、図書館の管理にICタグを活用した「次世代型IC図書館システム」の導入は全国で初めての試みである。

### (2) 建築概要

- |        |                        |
|--------|------------------------|
| ① 敷地面積 | 7,340.85m <sup>2</sup> |
| ② 構造規模 | 鉄骨造 地上2階建              |
| ③ 建築面積 | 2,762.42m <sup>2</sup> |
| ④ 延床面積 | 3,787.53m <sup>2</sup> |
| ⑤ 総工事費 | 13億1,500万円             |
| ⑥ 工期   | 平成13年7月から平成14年10月まで    |
| ⑦ 開館   | 平成15年3月27日             |

### (3) 蔵書数（平成25年3月末現在）

- |        |  |
|--------|--|
| ① 蔵書数  | 176,126冊（雑誌、AV資料、紙芝居は除く）<br>（一般書137,178冊、児童書38,948冊）<br>開架部分全体 97,504冊（全体の約55%）<br>（一般書77,831冊、児童書19,673冊） |
| ② 職員内訳 | 正職員9名<br>館長1名、庶務班2名（施設管理等）、奉仕班6名<br>（図書館全般サービス関係等）<br>非常勤職員 3名～4名／日<br>※ 登録者は6名                            |

### (4) ICタグ導入の経緯と機能

#### ① 経緯

クレジットカードなどでは日常的に利用されているICを利用した技術を公共図書館の世界に導入したのが、「次世代型IC図書館システム」である。本図書館では、システムの設計段

階において、開発中であった当該システムの内容を検討した結果、①図書の貸出返却業務の迅速化と効率化を図ることでレファレンス等のサービスに力を注げること ②貸出手続き確認ゲートが基本的には誤作動がなく、心臓ペースメーカー等の機器や人体への安全性も高い等の理由により導入を決定したものの。

## ② 機能

本システムの基本技術はRFIDに拠っている。これは「無線周波による非接触自動識別技術」と訳され、移動する人や物に付属したタグの識別情報をコンピュータに接続したリーダーが無線周波を介して読み取り、対象物を自動的に識別する仕組みであり、固体管理の基になる「タグ」と通信の中継をする「アンテナ」、情報の読み取り／書き込みを行う「リーダーライター装置」から構成されている。「タグ」はICメモリと通信回線で形成されたチップ、小型アンテナを内蔵しており、このタグを図書等の資料に貼付して利用する。タグ自体は電源を持たず、メンテナンスフリーであり、複数冊の同時読み取りが可能な点が大きな特徴である。

## (5) 現在における図書館運営の課題

図書館運営を市の直営で行っているが、職員の減少、司書職員の不足といった問題を抱えている。利用者と接し利用者の求める資料・要求を知り、配架、選書等一連の業務をスムーズに行うため、様々な研修を重ねることで専門的能力を身につけていくこととしているが、人員不足はどの図書館も抱えている課題であり、少数での図書館運営を行わなければならない現状である。

サービスの維持・向上のためには、職員の資質向上が不可欠であり、司書資格のない職員が多数を占める図書館では、知識やスキルの形成と継承に努め、時代の変化と住民要望に応えていけるよう育成していくことが直近の課題である。利用者に対して継続的に安定したサービスが提供できるよう努めていく。

## (6) 図書館建設に対するアドバイス

図書館利用を促進する上でも、資料の入替えは重要である。蔵書が新鮮であれば、その回転率は高くなり、効率のよい蔵書構成が得られる。しかし、単に新鮮であればそれで良いのではなく、蔵書冊数が多く、かつ、それが新鮮でなければならない。つまり、豊富は資料費で十分多くの資料を収集し、積極的除架で不要な資料を除く、そのような蔵書の更新が利用者の増加に繋がるものと考えられる。

## 所 感

### 藤 本 邦 之

#### 「山武市の認定こども園の取り組みについて」

視察した「しらはたこども園」はこの4月完成したばかりの認定こども園で、敷地面積9,727㎡、延床面積2,616㎡、鉄筋コンクリート造り、一部鉄骨造り、地上2階建て、工費9億円(実際はもっと多いらしい)、設計施工は竹中工務店。

ユニークなかたつむり状の2階建てで、地震、津波対策をしたため大変高くついたのである。

建物は立派すぎて感心するばかりだが、要はその運用である。一番興味を持っていたのは3・4・5歳児における合同保育(幼児教育+保育)の運営状況だが、長児部(長時間保育・保育所児)と短児部(短時間保育・幼稚園児)が同室で共通カリキュラムに基づき合同保育を実施する。

長児・短児それぞれの一日の生活時間に配慮し、活動と休息の調和を図りながら、共通利用時間において、幼児期の特性を踏まえた主活動を実施しているという。

保護者の就労条件等の有無に関係なく、卒園するまでその施設に在園でき、担任や友達も年度途中で変わることなく落ち着いた環境の中で園生活を送れることが合同保育の効果であるとの説明であった。

給与も同じで、人事交流については、保育士資格・幼稚園教諭免許を持っているので問題ないとのことであったが、職員の身分や配置の問題、研修や事務量の負担増になる要素が多く、実際の園運営は、幼稚園・保育所の制度が一元化されない限り複雑で難しいものとなっている。

職員の加入する共済制度の違いによる保育所型への異動に伴う職員の負担が大きいことや、幼保連携型こども園での幼稚園PTA組織と保育所保護者会組織の一本化の必要性、各種園行事への保護者の関わり方の違いとその内容、教育レベル水準低下への保護者からの懸念が課題となっている。

認定こども園の開設については、平成18年に市長(パリ大学1、卒)が幼保一元化を公約され、トップダウンで決定した。西脇市においても、財政上の問題はあがあるが、国・県の方針待ちで先延ばしするのか、今、施設老朽化解消も含め幼保一元化に着手するのか、結局は市長の決断にかかっていると見える。

#### 「ICシステムを活用した図書館運営について」

富里市立図書館は蔵書17万冊、来館者27万人、西脇市立図書館は蔵

書14万冊、来館者5万人。人口は富里市5万1千人、西脇市4万3千人。富里立図書館は来館者数がなぜ5倍も多いのか。ICチップを図書に張り付けただけの理由ではあるまい。

開館時間は、富里市は午前9時30分から午後6時まで、西脇市は午前10時から午後6時まで、富里市は金曜日は午後7時までとする。新聞は20紙、雑誌は189タイトル、西脇市は新聞7紙、雑誌50タイトル。

富里市内小中学校(11校)に図書を一括して貸し出す(2か月300冊以内)。北部コミセン、浩養小では本の検索、予約、予約本の受取、返却ができる。

管内の催し物は、講習会・講座115回。子ども向けのお話会45回、大人も含めた1日丸ごとお話会1回。日曜名作映画会など41回。その他学校訪問(新1年生に図書館利用方法を教える)14回。小学生に職場体験などもさせており、図書貸し出しに、行政が一体となって図書貸出数の増加を目指して積極的な推進方策を実施しているのがわかる。

ICタグを本に貼ることにより、①素早く便利に貸出・返却ができる。②高次元の貸出確認機能 ③ハンディ端末機により効率的な図書検索ができるなどのメリットがある。

図書購入費は、11,633千円(西脇市8,000千円)、新聞雑誌2,679千円(西脇市1,000千円)。電算経費は、年間約13,600千円、委託料4,230千円。その他経費2,000千円。チップ1枚105円という。

富里市立図書館は、平成15年3月に開館、鉄骨2階建て、延床面積3,787㎡、13億1,500千円で建築した。規模的に西脇市はこのような真似は到底できないと感じた。

## 岡 崎 義 樹

### 「山武市の認定こども園の取組みについて」

今回視察した千葉県山武市の認定こども園「しらはたこども園」は、本年4月に開園した真新しい保育園である。平成18年度に市長の公約に掲げられた幼保一元化により、運営に向けての取組みをされてきた。

幼保一元化の検討自体も、平成13年度から検討されていたことに驚いた。その山武市の児童数は、平成13年度は約3,300人であったが、平成18年度に4町1村が合併となり、児童数も2,500人と800人へと減少した。現在においても2,100人と減少傾向となっている。

園児の生活もほとんどの施設では、3歳児以下が長時間保育である。4・5歳児に関しては、長時間部と短時間部に分かれているが、山武市では、2歳児以下は長時間部、3・4・5歳児が長時間部と短時間部と別れて合同保育の形態をとり、児童が共存できるようなクラス編成を行っている。

また、統合については、保護者アンケート結果では約60%が賛同、賛同しないは約11%、わからないは約29%となっている。保育料は、3・4・5歳児の短時間部は月6,700円、長時間部に関しては、年齢に関係なく山武市の基準額となっている。

また、通園バスの費用は無料とのことであった。保護者の引率等の協力のもとで短時間のみがバス通園され、それ以外は保護者が送迎している。

今回の視察を通して、少子化問題もあるが西脇市として取り組む時期が遅いと思った。近隣の丹波市でも平成18年から取り組んでおり、西脇市と比べて6年も早く設置している。

今回の山武市でも、平成20年に設置している20名の委員で組織する検討委員会「公立幼稚園・保育園のあり方検討委員会」を毎年行っている。

本市では、築40年以上の施設も多くなってきているのが現状であり、国の動向も気になるところだが、早急に進めていくべきだと考える。

#### 「ＩＣシステムを活用した図書館運営について」

今回視察した富里市立図書館は、全国初のＩＣタグを用いた蔵書の管理を平成15年の開館に伴って運営している。そうした取り組みは、千葉県全体ともいえるぐらいに広がっており、それ以外に図書館の流通システムをデータベース化として貸出し等を行っていた。

こうした運営により、職員も9名体制であるが、一日に正職員1名、非常勤職員2名で図書館管理を行っている。

この図書館は、独立した施設であるが、とても落ち着いた雰囲気であり、開放感のある現代風でもあった。実際に視察した時も、平日にもかかわらず、多くの市民の方が利用されていることに驚かされた。

管内も図書館独特の静けさもあり、全面ガラス張りで解放感が感じられた。

また、図書館の貸し出しもＩＣタグを使用し、業務の迅速化と効率化が図られ、誤作動もないので不明本も少なく済む。

貸し出しエリアについても、流通システムを活用しているため、市内だけではなく、県内・関東圏内へも宅配便を導入している。

今回の視察を通して、西脇市としても、茜が丘複合施設内に図書館を設置し、このＩＣタグも導入するとのことであるが、近隣市では現在のところ導入しておらず、ほとんどの施設がバーコード管理である。ＩＣタグ導入することにより、迅速かつ効率化が図られるものと考えられる。

## 宮 崎 春 貴

### 「山武市の認定こども園の取組みについて」（千葉県山武市）

山武市では、少子化の進行、施設の老朽化、就学前児童の逆転現象、財政難等の状況があり、平成18年度に市長が幼保一元化を公約に掲げこども園化が決定された経緯がある。

幼保一元化は、市町村合併前の平成13年度から旧町において検討されていた。平成18年度に幼保一元化推進協議会設置、平成20年度公立幼稚園・保育所のありかた検討委員会設置等により環境を整え、開設に向けては、保護者との合意形成に向け説明会・アンケートの実施など何度も開き理解を得ている。

運営については、長児部（長時間保育児・保育所児）と短児部（短時間保育児・幼稚園児）が同室で共通のカリキュラムで合同保育（幼児教育＋保育）を行っている。合同保育は、保護者の就労条件等の有無に関係なく、卒園するまで在園でき、担任や友達も年度途中で変わることがなく、落ち着いた環境の中で園生活が過ごせるよう配慮されている。

山武市においては、幼保連携型こども園に配置された幼稚園教諭は、市長部局と教育委員会からの併任となっており、担当するクラスは0歳児から5歳児までのクラスの中で割り振るため幼稚園から移動してきた職員でも3歳児未満の担任配置も行われている。職員については、保育士資格・幼稚園教諭免許の両資格を保持している。

課題としては、職員の身分や配置の問題、研修や事務量の負担が増になる要素が多く、実際の園運営は幼稚園・保育所の制度が一元化されない限り複雑で難しいものとなっている。また、教育レベル水準の低下への保護者の懸念が指摘されている。

今回の視察先の「しらはたこども園」については、平成23年3月11日の東日本大震災以降、災害対策を最優先としたこども園を設置することについて保護者アンケートを実施、賛同は約6割、条件付きでは約7割が賛同となった。

平成23年9月には、議会において「緊急こども園整備事業」として上程、可決されている。

西脇市においては、国の幼稚園・保育所の制度が一元化されていないため足踏みの状態となっているが、子どもにとってどのような環境が良いのか、また施設の老朽化等の問題もあり、早急に解決しなければならない。

### 「ICシステムを活用した図書館運営について」（千葉県富里市）

富里市は以前、図書室のみで市民の要望が多く寄せられ、平成15年に図書館が開館し現在に至っている。

施設は、千葉県福祉まちづくり条例にあう施設となっている。開館当初から「次世代型 I C 図書館システム」を採用している。採用理由は、① 図書館の貸出返却業務の迅速化と効率化を図ることで、レファレンス等のサービスに力を注げること ② 貸出手続き確認ゲートが、基本的には誤動作が無く、心臓ペースメーカー等の機器や人体への安全性も高い などの理由で導入が決定されている。

I C タグ導入の効果としては、貸出・返却の迅速化、待ち時間の短縮、利用者自動貸出機（本人が自分で操作しカウンターに行かなくても手続きができる）、貸出手続き確認の正確化による信頼性の向上と住民財産の保護（富里市では平成24年度中の不明本は39冊）、その他、蔵書の点検・書架整理作業の迅速化・容易化・合理化・多機能化等が考えられる。

現在、新旧の I C タグが混在しており、同じ規格の I C タグに今後変わるものとする。また、I C タグにはバーコードもついており、I C タグに事故があった場合に対応できるようになっている。

西脇市の新図書館においても、I C タグ等を活用した最新の設備となると思うが、利用者に対しての安定したサービスの提供、図書館の責務、利用者に対しての最善の手法を考えていかなければと感じる。

## 中 川 正 則

### 千葉県山武市 認定こども園「しらはたこども園」

山武市では、少子化の進行、施設の老朽化、就学前児童の定員割れと待機児童の発生、財政難等々の理由から、幼保一元化の実施に平成18年に公立でこども園化することが決定された。

同年には幼保一元化推進協議会を設置。施設整備の内容と園運営の内容を決定し、双方の職員に対して理解と協力を求め、保護者への説明会を行う中で教育・保育機能を併せ持つ総合幼児教育施設として認定こども園を開設された。

統合される保育園が公立のため平成20年に2園、平成25年に「しらはたこども園」が完成。今後、私立の保育園を統合する地区については、こども園化が難しい状況と判断し検討課題となっている。

合同保育については、長児部（長時間保育児：保育児）と短児部（短時間保育児：幼稚園児）が同室で、共通のカリキュラムに基づく合同保育として長児、短児それぞれの特性を踏まえた活動を実施されている。

幼保連携型こども園に配置される幼稚園教諭は、市長部局と教育委員会からの併任辞令で、0～5歳児のどのクラスでも担当する。ほとんどの職員は保育士資格と幼稚園教員免許両資格を保持されている。給与体系も同率となっている。

認定こども園では理念や機能等、良い面もある一方で職員の身分や

配置、研修や事務量の負担増になる要素も多い。幼稚園・保育所の制度が一元化されない限り複雑で難しい現状。広い敷地と高台での津波対策等安心して子どもを預けられる施設を実感。

### 富里市立図書館「ICシステムを活用した図書館運営」

平成15年市立図書館（愛称なし）を開館し、市民総数4万9千人の市で年間来館者数が27万9千人（平成24年）、貸出冊数28万5千冊と効率のよい図書館運営がなされている。

蔵書数17万6千冊（一般書、児童書）、そのほかに雑誌・AV資料・紙芝居がある。1日平均来場者も1千人と多いが、貸出、戻し入れの作業を正職員9名と非常勤職員3～4名でこなしている。ICタグの成果が表れているようだ。

内容的には①貸出、返却作業の迅速化、待ち時間の短縮 ②利用者自動貸出機による利用者の利便性向上 ③貸出手続き確認の正確化による信頼性向上と住民財産の保護 その他、書架整理作業、蔵書点検等事務的な業務効率向上にもつながっている。

ここ10年間でタグの形状が進化しており統一が課題。タグの取り付け、読み取り機等で年間1,800万円ほどの経費が必要。

本市の図書館建設に対するアドバイスでは、「資料の入替は重要、蔵書が新鮮であれば回転率も上がり、効率よい蔵書構成が得られる。蔵書冊数の多さも大事だが新鮮でなければならない。蔵書の更新が利用の増加につながる。」

### 村 井 正 信

#### 「山武市の認定こども園の取り組みについて」

山武市は、人口56,089人でその内15歳未満が6,469人で11.53%を占めている。西脇市は、人口が43,253人で同割合は13.13%である。

平成18年、3町1村での合併で山武市となり、合併当時公立幼稚園が8園、公立保育所が7園、私立保育所が3園あった。当時の状況は施設の老朽化、就学前児童の逆転現象（待機児童の発生〈約20人〉と幼稚園の定員割れ）、財政難とのことで、それらを解決するために認定こども園設立に動き出した。その結果、現在認定こども園が5園と公立幼稚園が2園、私立保育所3園となっている。

山武市は、九十九里浜に面しており東日本大震災時にも津波が押し寄せてきて、海岸近くでは被害が甚大であったとのこと。このことを鑑み、場所設定をされたとのことであるが、「なるとうこども園」は土地を含め12億円、「しらはたこども園」は9億円の費用が使われていた。

内陸部にあると思われる「なんごうこども園」・「まつおこども園」は既存の建物を使用し、「おおひらこども園」は増築改修方式で1億5,000万

円の費用とのことであった。

ここに働く職員は186人で、正規職員が70人、臨時職員(6か月雇用の更新を継続)が116人。正規職員の給与体系は一本化されており、こども園設立時での調整は不要であったと思われる。

山武市は、公立幼稚園とほとんどが公立保育所であり、従前から幼稚園の4・5歳児と公立保育園の4・5歳児は同じ内容の保育をしていたとのことであった。

上記の現状を聞かせていただき感じたことは、

- 1 公立幼稚園、公立保育所での合併で公立のこども園ということで、保護者にも理解が得やすかったのではと思われる。
- 2 私立保育所と公立保育所の合同は今後の課題ということで手が付けられておらず、その困難性が多大であるということ。
- 3 山武市のこども園への支出は、現在までで23億円程度となっており、山武市の23年度決算額は220億8,300万円で、その額からすると1割強の数字であり(西脇市195億400万円)、その熱意を感じるとともに大変さも感じる。
- 4 西脇市でこども園設立を考えるにおいて予算、園の場所、山武市では手つかずとなっている公立と私立の統合等、非常に大きな課題がある。
- 5 財政難からのこども園設立ということもあり、職員の62%が臨時職員となっているが、モチベーションが維持できるのだろうか危惧するところである。

#### 「富里市のＩＣシステムを利用した図書館運営について」

富里市は以前富里町であったが成田空港の隣に位置しており、人口増により合併をせずして市に昇格している。財政力指数が0.83%で、公債費比率も7.1%と、自主財源があり借金も少ない財政的には健全な市である。因みに西脇市は、財政力指数が0.52%で公債費比率は12.1%である。

富里市立図書館は、初めてできた図書館で13億1,500万円をかけ、平成15年3月に開館した真新しい図書館である。年間予算としては、図書等の購入費は約1,430万円、図書館情報システム機器やデータセンターの使用料等で1,200万円程度、そして委託料が約420万円、人件費や光熱費等を含め年間総額が約8,000万円程度とのことであった。

2階までの吹き抜けになっており、一面の窓から太陽の光がたくさん入る形態で心地よいスペースになっている。

富里市立図書館における視察の一番の目的は、①図書にＩＣチップを貼って管理する方法と、②その効果を学ぶことであった。①については、図書館情報センターから情報が入った図書を購入しており(1

枚105円)、図書館として情報を入力することはなく省力化している。

市内の本屋さんでの購入は少なく、市税を市内に還流することも考えないといけない。②については、受付入力が簡易で、10冊まで一瞬に受け付けることができ、また、利用者貸出機では利用者が自分で貸出受付が可能となっている。

また、不明本が極端に減少し24年度1年間で39冊であった(因みに西脇市図書館では、23年度の不明本は311冊である。)。大きな効果の一つとして、蔵書の点検がバーコードでするより半分ぐらいの日数でできるとのことであった。

これらは、資金を投入することにより可能になることであるが、この図書館の最も良いと感じたのは地域のコミュニティセンターで図書の貸し出し返却が可能なことである。

茜が丘に図書館が建設されるとするなら、西脇市の南の端となり図書館まで行くのに不便を感じる人が多くいるのではないかと感じる。地域で本が借りられ、返却が可能システムをつくることが大切であると学んだ。

## 廣 田 利 明

### 「山武市認定こども園」

少子化の進行、幼稚園、保育所の施設の老朽化等の事情を受け、平成13年度から幼保一元化を検討してきたが、平成18年の合併を契機に、市長の公約実現のため、幼保一元化が進められた。

平成18年11月に「山武市の幼保一元化推進協議会」を設置、認定こども園設置に向けた施設整備の実施と園運営の内容を決定し、幼稚園・保育所職員への協力を求めた。

また、保護者へこども園化の説明会(3回)を行い、理解をいただきながら教育・保育機能を併せ持つ総合幼児施設である認定こども園の開設に至った。

\*平成20年4月開園(なんごうこども園、まつおこども園)

今回の視察は、平成25年4月に開園した「しらはたこども園」を訪れた。この園は、津波対策を考慮した園である。房総半島近くにあった保育所と幼稚園4つを統合したこども園である。東日本大震災では浸水しなかったものの、保護者から安全な場所につくってほしいと要望があり、計画より早く完成した。

千葉県東方沖地震が起きても浸水しないとされている場所に建てられたが、万一に備えて、建物には津波の衝撃をやわらげる構造、屋上には、すべての園児が避難できる広場など、様々な工夫がされている。

この園では、長児部(長時間保育児:保育所児)と短児部(短時間保育児:幼稚園児)が同室で共通カリキュラムに基づき、合同保育を

実施している

また、合同保育の効果としては、保護者の就労条件の有無に関係なく、落ち着いた環境の中で園生活が過ごせることがあげられる。

\*平成25年4月、なるとうこども園が開設している。

今回の2つのこども園は、3歳児から5歳児を短児部として預かっている。

幼保連携型保育園に配置された幼稚園教諭は、市長部局と教育委員会からの併任辞令を受けており、担当するクラスは0歳児から5歳児までのクラス中で割り振るため、たとえ幼稚園から異動してきた職員であっても、園の職員配置の都合によっては、3歳未満児のクラス担任配置も行っている。

認定こども園の理念やめざす機能など素晴らしい面がある一方で、職員の身分や配置の問題、研修や事務量の負担が増になる要素が多く、実際の園運営は幼稚園・保育所の制度が一元化されない限り、複雑で難しいものとなっている。

#### 「宮里市立図書館の概要について」

- 平成15年3月に図書館開館
- 敷地面積 7,430.85㎡
- 建築面積 2,762.42㎡
- 構造規模 鉄骨造、地上2階
- 駐車場 70台（うち身障者用2台）
- 総工事費 1,315百万円
- 施設の特徴
  - ・吹き抜け空間に床冷暖房を併用した空調
  - ・雨水をトイレ等の雑用水として利用
  - ・施設内に段差がない
  - ・車椅子対応のエレベータや閲覧席の設置
- 収納可能冊数 20万冊
- 図書 約17万冊
- 平成24年度実績
  - ・開館日数…278日
  - ・来館者数…279,702人、1日平均1,006人
  - ・登録者数…1,904人
  - ・貸出冊数…285,386冊

10年前に建築された図書館は、当時としては最新のICタグを使用している。IC図書館システムの特長は次のとおり

『1枚のICタグを本に貼ると…』

- 1 素早く便利な貸出・返却、複数冊を同時に貸し出し返却、誰にでも使いやすい利用者貸出機
- 2 高次元の貸出し確認機能、人体への影響が非常に少ない構造、誤作動が非常に少ない構造
- 3 効率的で楽な蔵書点検

点検作業期間を短縮、作業負担を大幅に削減、課題としては、新旧のタグが混在していることから、システム的には互換性のある機器を使用しており、今後、最新の規格のものに統一していきたいとのことであった。